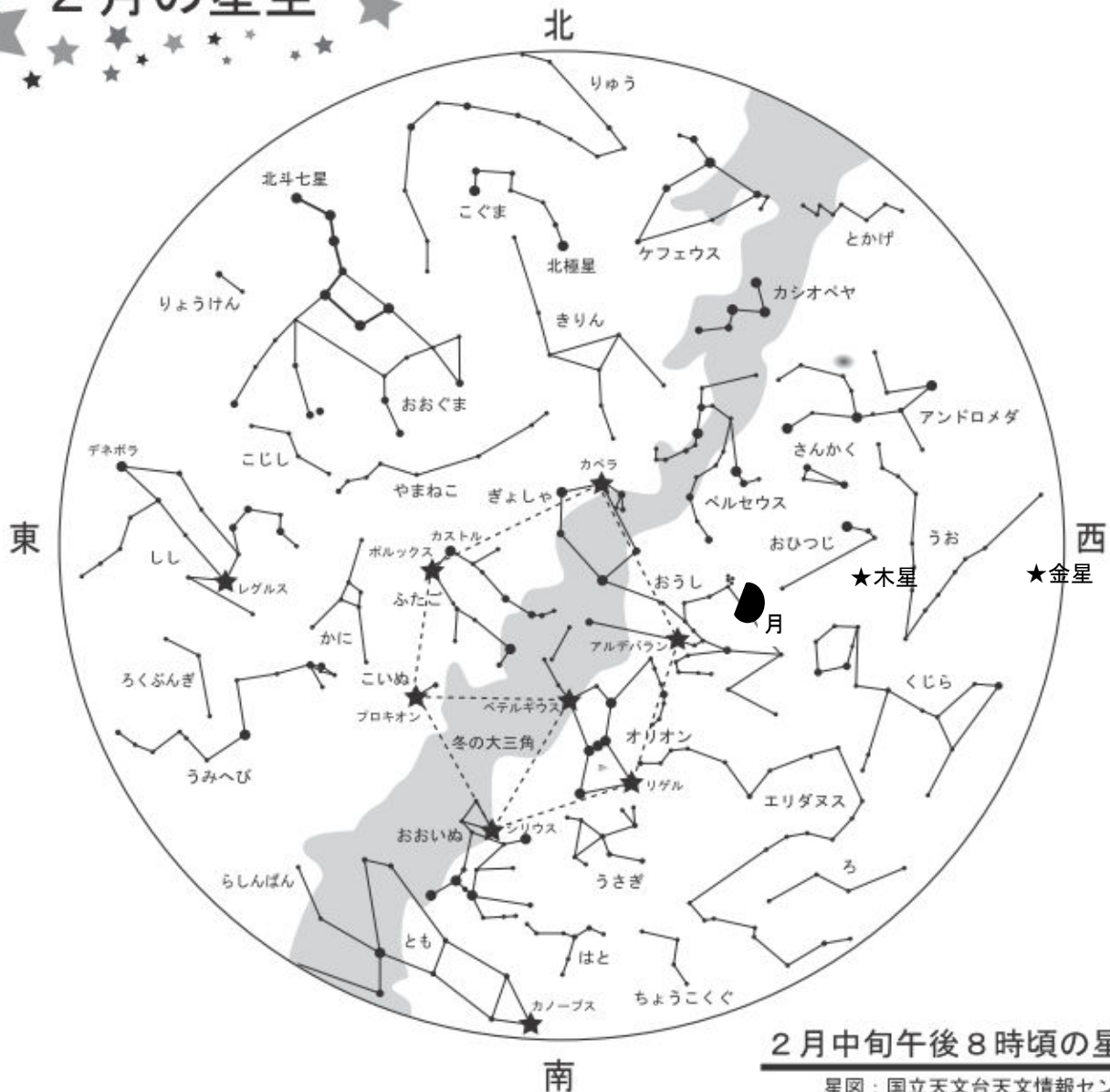


松江市立天文台～2月の天文教室～

2012年2月1日

★ 2月の星空 ★



2月中旬午後8時頃の星空

星図：国立天文台天文情報センター

※月は2月1日の位置です。

実際の空を見ながら星を探すときは見る方角を下にして見ます。

一年でもっとも寒いこの時期は、星ももっともきれいに見える時期でもあります。日没直後の南西の空には、純白に輝く「金星」(宵の明星)とオレンジに輝く「木星」がその明るさを競っています。これから4月上旬まで、西の空でふたつの明るい惑星が並ぶように見えています。天気の良い夕暮れ、ふと空を見上げてみたら必ずみつかるとでしょう。

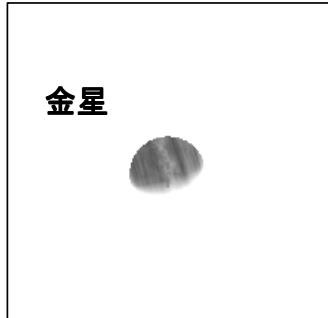
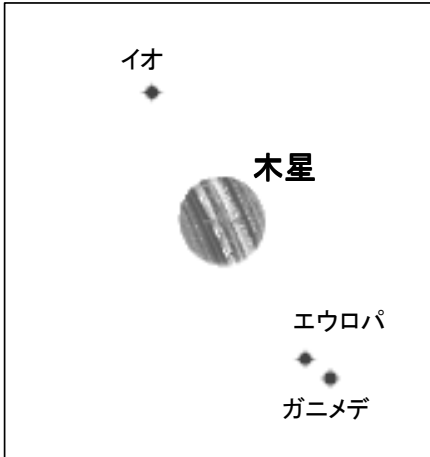
そして夜がふけるにつれ冬の星座達が輝きを増していきます。惑星などを除けば一番明るい恒星、おおいぬ座の α 星シリウスを初めとして、多くの一等星を見ることができるようのもこの季節なのです。夜がふけるに従い春の星座も見え始めます。

今夜の観望リスト

今夜ご覧いただいた天体をご紹介します。(天候の状況等で観望対象は変更する場合があります。)

★ 木星と金星

木星と金星を天体望遠鏡で見た姿で180度回転して表示しています。また実際の視直径(見かけの大きさ)は木星が金星の2.5倍の大きさです。



木星はその質量が地球の約300倍以上もある太陽系最大の惑星で、そのほとんどがガスで出来ています。表面のしま模様や、4つの大きな衛星(ガリレオ衛星)は小型の天体望遠鏡でも楽しめます。

金星は地球の内側を回る惑星で、大きさ、重さは地球によく似た星ですが、厚い雲に覆われ、表面は気温470度に90気圧という灼熱地獄の世界です。

この時期金星は月のように欠けた姿で見ることが出来ます。

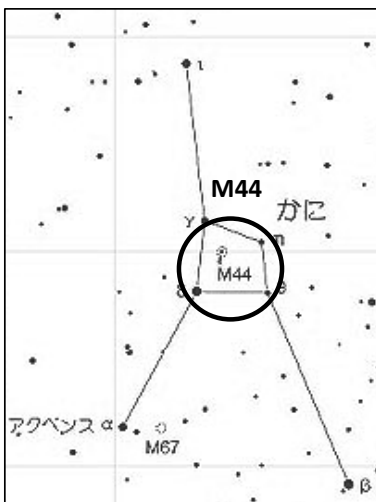
★ 月(月齢8.8)

月は地球の衛星で、地球から約38万キロの距離にあります。また、肉眼で表面模様が見える唯一の天体であり、古来よりその模様をもとにした伝説に事欠きません。

模様のうち、白っぽい部分を「海」、黒っぽい部分を「山脈」と呼びます。天体望遠鏡で見ると、「海」は平坦な地形で、「山脈」はクレーターが数多く存在するのが分かります。

なお、アポロ11号が人類最初に月に着陸した場所「静かの海」も見ることが出来ます。

※ 右図は天体望遠鏡にあわせて180度回転した図です。



M44(プレセペ)かに座の散開星団

かに座の中心あたりに位置する散開星団で、地球から約600光年の距離にあります。大きな星団なので、天体望遠鏡より、双眼鏡などの低倍率の方が美しく見えます。

肉眼でもぼんやりとした姿が見えるので、紀元前から存在は知られていましたが、ガリレオが天体望遠鏡で観測して、初めて星の集団であることを発見しました。

ちなみに、プレセペは「馬のかいば桶」という意味ですが、これが古代中国へいくと、「死体から立ち上ったガスの塊」という大変不気味な意味の名称を付けられています。

※M44の距離は、天文情報HPアストロアーツのメシエ天体ガイドからの引用です。